



# 自分の人生を自分らしく、美しく完成させるための…終活「生前準備」講座 市川雅清

## 教養講座 第3章

### 人生を変えるヒント

#### (5) あの世「死後の世界」は本当にあるのか？ その2

死んだ後、人はどこへゆくのか？一人類にとって「あの世」は常に興味・関心の的であり、宗教も科学もその間に答えを出そうとしてきました。「あの世」について学ぶことで、生きることも、そして死ぬことも、きっと少しだけ楽になるはずですよ。

生きていながら見ることができない「あの世」について生々しく証言する臨死体験者でも、生死の境をさまよった経験を持つにすぎません。「あの世」の全部を見たわけではないのです。脳死でキラキラしたお花畑など心穏やかになるような情景が見えるのは、非常に危機的な状況にある人に平安をくれる脳の働きがあるのかもしれない。脳が死の苦しみを和らげているのでしょうか？



科学の視点でいえば、そもそも「生」と「死」の境目は、はっきり断定できないところもあるのです。心停止、呼吸停止、瞳孔散大をひとつの区切りとしていますが、生物が心停止した後でも脳波の変化はありますし、すべての細胞が死んでいるわけではなく、どう捉えるかは実は非常に難しいところにあると言えます。

最近ではラットの実験で、亡くなった後の数十秒間は脳波の活動が活発になると言われていて、臨死体験に関係している可能性があると言っています。(脳内現象説)

宗教において、あの世「死後の世界」はどのように考えられてきたのでしょうか。人が死ぬということは肉体と意識のつながりが切れ、意識が肉体から出ていくことを意味します。(魂存在説)

世界三大宗教(民族・地理を超えて広がっている)のキリスト教とイスラム教の元となったユダヤ教では、人間には、神を裏切った「原罪」あり、この世は罪滅ぼしの世界だと捉えられています。ここで神の教え通り良いことをすれば、許してもらえて、天国(光の国)

に行ける。この考え方は、派生したキリスト教にもイスラム教にも継承されています。ただ、この世の位置づけが少しずつ違って、キリスト教では「悔い改めよ」という禁欲的に自らを律する面が強調され、イスラム教では礼拝やラマダンなど「罪の償い方」が全部決められています。しかし、いずれも「一回起生」といって、生きるチャンスは一回しか与えられていません。だから厳しい宗教と言えます。

これに対して、仏教では人間は「輪廻転生」して、生前の行いで次に生まれる世界(来世)が決まると考えます。しかし、転生はあくまでも極楽浄土などの理想世界へ行くための通過点にすぎません。ここがユダヤ教系の宗教と大きく異なる点ですが、そうした宗教の根底には共通するものがあります。「天国とか来世」がないと、この世での倫理が成り立たないという考え方です。簡単にいえば、悪いことをしても、死んでしまえばそれまでということになってしまいます。「誰もが地獄には落ちたくありませんね…」その意味で、人類にとって宗教は必要不可欠なものだと言えます。

「死んだらどうなるか」が示されることで「どう生きるか」が見えてくるわけです。「あの世」がどんなものかを考えることが、一人一人の「この世」に与える影響は決して小さくありません。

次回、第20号の予告  
第3章 教養講座  
(6)「転生」と「輪廻」について、詳しく説明していきます。お楽しみに…



●自己紹介 (いちかわまさきよ)  
1955年生・B型・おうし座  
一級葬祭ディレクター  
技能審査協会審査官  
ライフ終活アドバイザー  
趣味/写真・登山・心学研究  
座右の銘/単純、明快、矛盾なし  
大切にしているもの/見えないもの、見えないところを大切に

## 心にのこった…ご葬儀 ⑱

### 希望通り「還暦」で引退します！

お葬式には、大なり、小なり、ドラマがあります。家族・親戚・友人・知人・会社関係など大勢の方に送られる方、家族、親戚、ごく親しい友人だけで送られる方、身寄りがなく行政の方と私共スタッフに送られる方、大きな式も小さな式も宗教者のいない式も葬儀の形は様々ですが、どんな形であっても故人様の歩んで来られた歴史を垣間見る場面がよくあります。そこに関わってこられた人達との最期のお別れに立ち合わせて頂けるということは本当に素晴らしい事なのです。嬉しかった事、悲しかった事、感動した事、重い気持ちになった事、清々しい気持ちになった事など、この仕事だからこそ、多くの方に「死」に関わらせて頂いたお陰で、自分自身の「死」というものを冷静に考えることができるはず…と自負しております。来年還暦を迎える今、少しずつ古い仕度を進め、どの位かわからない残りの人生、何がしたいのか、何をすべきなのか、日々物を片付けながら頭の中も整理していきたいのです。無我夢中で生きてきた日々、そろそろ終止符を打って穏やかで静かな日常を送りたいと切に願うようになって参りました。会社は、三年前にスタッフの殆どが入れ替わりしました。一年前には、社長(私の夫)が会長となり、新しい坂上社長のもと、生まれ変わった我が社は業務内容



もどんどん変わり、世代交代も少しずつ進んでいます。また、お陰様で3つ目の家族葬ホール「早田星光庵」も12月オープン予定の運びとなりました。これを機会に『60歳で引退』の希望通り、手放せる所はどんどん手放していきたいと思っております。これも、社長はじめ社員のお陰と感謝しております。

次号より、「心にのこった…ご葬儀」の担当を降りることに致しました。長い間、つたない文章をお読みいただきありがとうございました。又、思いを綴って下さったご遺族の皆さま、書かせて頂いたご当家様、故人様、本当にご協力ありがとうございました。この後は、スタッフがどんなコーナーにしてくれるのか楽しみにしております。認知症がかなり進んでいる会長の母のお世話をしている現在、母に教えられることもたくさんあります。母が、毎日好きなように楽しく暮らせるお手伝いをしていただけて、母の魂が喜んでくれる事、安心して最期を迎えられることを願いつつ、穏やかに看取りの勉強もしていきたいと思っています。しかしながら、会社には出勤しております。要請があればお手伝いも致します。これからも、何かありましたら市川葬典にご相談下さいませ。どんなことでもお待ちしております。久美子

### カレンダーの2017年問題、大安が仏滅に!?

### Column

六曜はほとんどの方がご存知だと思えますが、大安や仏滅のように6つの曜の事で旧暦をもとに割り当てられます。昔段々にしなくても慶事は大安がよいなど生活のなかで意識されます。六曜は旧暦をもとに決められていて、旧暦の毎月1日を起点に先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口を順に当てはめます。しかも暦の月が新しくなると六曜の起点が変わり、例えば旧暦の1月は先勝から、2月は友引から、3月先負からとそれぞれ毎月1日の六曜が繰り上がります。そして旧暦の日付は月の満ち欠けと連動しているため、来年2月の新月は「26日午後11時58分」。しかしこれはあくまでも計算上の予測であるためズレも生じます。このためカレンダー業界では27日が新月の六曜付カレンダーも制作しております。2種類のカレンダーが存在しています。26日を新月と考えると3月25日(土)は「大安」に、しかし27日新月説をとると「仏滅」となります。そんな事情から「日本ブライダル文化振興協会」には、複数の施設からこの期間の大安を確認する相談が寄せられているそうです。ただし本年2月に国立天文台が発表した暦要項(れきようこう)によると「26日を新月とする」とあったので、おそらく来月販売が開始される2017年カレンダーの3月25日(土)は「大安」ではないかと思えます。日本では旧暦が廃止されており、国や公的機関のお墨付きを得た公式の旧暦は発行されていないのに、何故主にこの暦が冠婚葬祭には用いられるのでしょうか？どうも我々日本人は「験担ぎ」(げんかつぎ)をし、生活のなかで意識して行動してしまう魔しき人種なのかも知れません。



●社長自己紹介 (さかがみかずみ)  
1965年生・A型・てんびん座  
一級葬祭ディレクター 貨物事業運行管理者  
趣味/寺仏巡り。松山千春さんの歌を聴きながらのドライブすること。座右の銘/男は男らしく、女は女らしく、人間は人間らしく。大切にしている物/時間・規律・秩序



株式会社市川葬典 取締役社長 坂上一己